

書名	日本の仏像はじまりの地 奈良の仏像115			著者名	田中 ひろみ／著		
出版社	西日本出版社	ISBN	978-4-908443-92-3	本体価格	¥1,500	発売	2024/12/2
内容	日本に初めて仏像が伝えられたのは、奈良。6世紀中ごろ百済の聖明王から欽明天皇に金銅の釈迦如来像が送られたとされています。つまり奈良は日本の仏像発祥の地。そのためか、日本の国宝仏像140件のうち76件の仏像が奈良にいらっやいます。都のあった、飛鳥時代、白鳳時代、奈良時代はもちろん、1180年の平重衡らによる南都焼討ちによって東大寺、興福寺が焼けました。この復興のため、慶派の仏師が仏像を作ったので、鎌倉時代の仏像もたくさんあります。奈良では、時代を超えた仏像に出会うことができるのです。						

書名	日本の都市をめぐる			著者名	斯波 照雄／著		
出版社	学文社	ISBN	978-4-7620-3389-6	本体価格	¥2,900	発売	2024/12/10
内容	「日本の都市の活性化」を各都市別に考える。 長年、主に西洋の都市について比較研究を行ってきた著者が、北は函館から南は那覇まで、各都市で経験したこと、考えさせられたこと、どうしたら各都市が元気になれるだろうか、などについて素朴な思いを書き続けた「日本都市紀行」をまとめ、日本の個別都市(21の都市)のそれぞれの特徴を生かした活性化を考える。						

書名	正倉院文書を考える			著者名	宮崎 健司／著		
出版社	法藏館	ISBN	978-4-8318-7784-0	本体価格	¥4,500	発売	2024/12/13
内容	仏教史研究における正倉院文書の有用性とおもしろさ！ 写経組織や事業の解明、当時の仏教理解、官人と僧侶との人間関係など、仏教史に関わる問題を具体的に掘り下げる、意欲的論文集。						

書名	古の日本(倭)の歴史			著者名	藤田泰太郎／著		
出版社	翔雲社	ISBN	978-4-434-34663-7	本体価格	¥3,000	発売	2024/12/16
内容	書籍「古の日本(倭)の歴史」では、縄文文明を日本文化の基層として捉え、かつヒトのDNA解析を駆使して明らかになった「日本人成立のモデル」を提唱している。さらに、これまで混沌としていた「紀元前1世紀より4世紀までの倭国の歴史」を天孫族(皇統)の系譜として捉え、具体的な年代に基づく歴史として提示した。						

書名	奈良時代の大造営と遷都			著者名	小笠原 好彦／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08464-2	本体価格	¥2,400	発売	2024/12/16
内容	710年、藤原京より平城京に都を遷し、新たに律令社会の形成をめざした奈良時代。地方の行政を担った国司・郡司らの仕事や古代の道に立てられた告知札、対馬・隠岐の実像や墓誌にいたるまで、古代社会の諸相を描く。遷都を繰り返した「聖武による五年間の彷徨」の意図や、行基が参画した大仏造立、平城京内の寺々の造営の実態を解き明かす。						

書名	古代の酒に酔う			著者名	庄田 慎矢／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-08467-3	本体価格	¥2,500	発売	2024/12/16
内容	古代の人々はいかに酒を造り、それはどんな香りや味がしたのか。平城京長屋王邸宅跡から出土した木簡には、酒米や麴、仕込み水の比率などが記される。酒を仕込むための容器である須恵器甕を復元し、いざ古代の酒造りに挑戦。考古学や文献史学、微生物学など多分野の研究者や酒造家が結集し、世界各地の土器醸造にも目を向け、甕酒造りを再現する。						

書名	恋する女帝			著者名	周防柳／著		
出版社	中央公論新社	ISBN	978-4-12-005868-4	本体価格	¥2,300	発売	2024/12/23
内容	天平勝宝元年(749年)に即位した孝謙天皇(のちに称徳天皇として重祚)は、「奈良の大仏」造立で知られる父・聖武天皇の後継者として、21歳で史上唯一の女性皇太子となった。即位後、近臣・藤原仲麻呂に支えられ治世は安定しているかと思われたが……。平城京が騒然とした皇室スキャンダルと、天智天皇以降の皇統の謎に迫る、中山義秀文学賞受賞第一作。						

書名	日本の原風景99			著者名	近藤 正文／著		
出版社	同時代社	ISBN	978-4-88683-980-0	本体価格	¥3,000	発売	2024/12/27
内容	日本の国土は、北海道から沖縄まで凡そ3000kmに広がります。そこには、人々の生業が営々と刻み込まれ、さまざまな暮らしの風景が発現されてきました。それは、地上に描いた“人間の落書き”かも知れませんが、いろいろな自然条件や社会条件の下で、自らの生活を賭けた大真面目なものです。この密度の高い原風景に出会うと、心象の琴線に触れ思わず感動します。						